

ひろば 大代

No.500

令和3年3月号

大田市の人口
(R3.3.1現在)
大田市 33,729人
内大代町 327人
男 148人
女 179人

500号記念特集

「ひろば大代」500号発行にあたって

大田市長 楫野弘和

「ひろば大代」500号発行、誠におめでとうございます。

昭和45年11月の「つどい」第1号発行以来、50年以上の長きにわたり大代の情報発信と地域のみなさまへの情報提供を続けてこられました。編集委員をはじめ、町民のみなさまの長年のご尽力に対し、心より敬意を表します。

大田市では、「子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち」「おおだ」を将来像として、様々な人が、一緒に楽しく夢を語り合いながらアイデアを創り、市民・事業者・行政「おおだ」に関わるすべての人たちが一緒に汗をかきながら、ひとつずつ形にしていく「共創」のまちづくりを進めて行くこととしています。

近年、人口減少や若者の流出、高齢化の進展に伴い、地域住民の暮らしを支える生活サービスがなくなるなど、さまざまな課題が生じています。住み慣れた地域で今後も安心して暮らし続けていくためには、地域住民自らが、

地域の状況や課題を知り、その解決に向けて何が必要かを考え、取り組むことのできる仕組みづくりを推進することが重要となります。地域のみなさんが地域の情報を共有し、連携を深めていくためにも広報の果たす役割はますます大きなものとなっています。

この「ひろば大代」500号は通過点として、今後600号、700号を目指し、発展・充実され、地域のみなさまに愛される広報となりますようご祈念申し上げます。

「御手植えの松」と

「山陰道行啓録」

大代まちづくりセンター長

大代高山会会長

佐藤哲朗

昭和45年11月公民館報「つどい」第1号が発刊され、昭和55年6月第11号からは「ひろば大代」とタイトルを変えて今日まで41年間途切れることなく発行を続けられました。発行に係られた諸先輩に深く敬意を表します。



平成20年5月「ひろば大代」第346号にも投稿しました「山陰道行啓録」に興味ある記述がありました。

大正天皇が皇太子時代の明治40年5月10日から6月6日まで鳥取・島根県を視察されました。鳥取県内は列車で島根県内は馬車での行啓(※)でした。

5月29日大家村尋常高等小学校(後の大代中学校、現在の大代まちづくりセンター)

にお泊りになり、その時植樹をされていきます。

「山陰道行啓録」には御手植「当地御旅館尋



大家村御旅館
(尋常高等小学校)

常高等小学校校庭へ櫛のお手植えありたり」とあります。現在も残っている、まちセングランド北東側の「御手植えの松」は松でなく「お手植えの櫛」?と疑問を持ちました。私が中学校時代、校庭南側に当時随行された東郷大将の「お手植えの松」の記憶があります。

現在は松くい虫のため枯れて伐採されていますが、皇太子殿下と随行者の東郷大将が同じ種類の松を植樹されたか又、何かの理由で櫛が松に生え変わったか疑問が生じました。「行啓録」には5月31日に浜田の御便殿(御宿)に到着し、6月1日浜田中学校を視察され、校庭へ「松のお手植ありて…」東郷大将も全校庭へ「櫛の手植せられたり」とあります。皇室関係の書物で誤植(印刷物における文字や数字・記号などの誤り)とは考えられません。真相は114年前に遡らないと判明しません。

「山陰道行啓録」には当時各地の奉迎の様子・拝謁者・賜り物・献上品・産物等、大変興味深い記述が詳細に記録されています。まちづくりセンターに原本が保管されていますが、



発行から百年余り経過し傷んでいます。当時の貴重な資料で、一部分(大田(大家間)を複製しました。興味のある方はまちセンに見に来てください。

(※行啓 皇后・皇太后・皇太子・皇太子妃が外出されること)

ひろば大代500号おめでとう

大代連合自治会長 山根義雄

「ひろば大代」500号の発行、誠にめでとうございます。去年から今年にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響で今までの伝統行事関係はほとんど中止になっております。今年は何事もなく開催できればと思っております。先日は東北でまた大きな地震がありました。日本全国どうなっているのでしょうか。自然災害はいつでも起こるかわかりません。皆様気をつけて過ごしましょう。

この「ひろば大代」がどんどんつながるようにお願い申し上げます、挨拶いたします。



「ひろば大代」に感謝!

東京石見高山会会長 市原幸文

500号の発刊、おめでとうございます。毎月定期的に継続して長きに亘ってご努力され、発刊されていることに、心より敬意を表します。

元々地域の広報と連携を進めるためのツールとして企画されたものと思いますが、継続は力なりとして日本中に誇る事のできるレベルの高い内容を常に維持されています。

故郷を後にした私たちにあって「ひろば大代」は「宝物」です。毎号隅から隅まで読んでいます。そして、大切にとじ込み、見返しています。

便受けを楽しみにしています。そして大代の皆様の各所における活躍の様子と滋味あふれる文章にい



大江高山とそばの花

つも勇気を頂いています。

大江高山の豊かな自然の中、自治を通して、お互いを思いやることの大切さを教えていただき、育てて頂いた大代の皆様に感謝しながら毎日を過ごしています。

コロナ禍がなかなか収まりません。大代の皆様、どうぞご自愛ください。

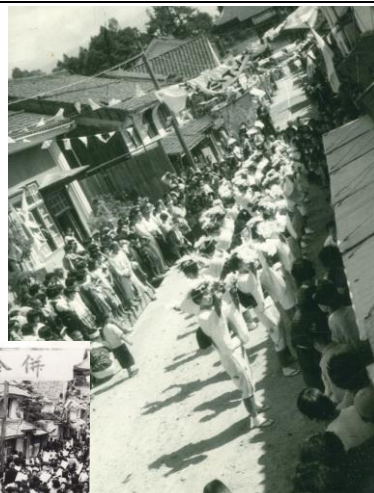
祝「ひろば大代」500号



関西高山会会長 坂井晋

「ひろば大代」がこの3月で創刊以来500号を迎えるとの事。昭和45年11月に前身である「つどい」が発行されて以来50年。まさに半世紀にわたり大代の皆さん、そしてふるさとを離れた皆さんにとって親しみやすく、かけがいのない情報誌として長く受け継がれてきたものと思います。佐藤センター長をはじめ、この事業に取り組みされて来られた歴代のスタッフの皆さんに改めて敬意を表したいと思えます。

文献によりますと大代町は江戸時代を通じて幕府領大森代官所の直属支配地であり、石見銀山確保のための要地であり古くから町場が形成されたと思われず。また、小学校時代の思い出ですが、一時期川本町と合併し直後にリコール、大田市と合併しなおすという騒動もありました。このようなことから大代町は古くから積極性にすぐれ、文化的な意識の高い地域柄であったように思います。



↑ 川本町合併祝賀行事 S30. 4. 1

↓ 大田市合併祝賀行事 S32. 12



「ひろば大代」に掲載されているようにいろいろな伝統行事も脈々と継承され、一方で福祉弁当、しめ縄作り、「あすなる句会」など新しい文化活動も活発におこなわれているようです。そういった活動を「ひろば大代」を通して知る事が出来、毎月楽しみになっています。感謝とともに今後もますますの発展、継続を期待しております。

輝かしい500号

大代婦人会会長 佐藤京子



「ひろば大代500号」おめでとうございます。11月にまちづくりセンターより500号記念の原稿依頼がありました。第1号の「つどい」は昭和45年に始まり昭和55年の11号より「ひろば大代」の名称に変わりました。10号までの10年間には発行の為の財源もままならなかったとの記録もあり今の幸せを思わずにはいられません。何事も始めの立ち上がりは暗中模索で苦しみ

ありそれを続けていく事は時々目的を見失い流れ作業になる事もあります。繰り返しは新しいことの発見でもありません。499号まで寄稿されました皆様編集に係わられました皆様のご苦勞を思いながら改めて「ひろば大代」を途絶えさせる事なく発刊されますよう切にお願いしたいと思います。300号の記念集（平成16年）に石清水八幡宮の十七夜の様子が以下のように書かれています。

今年も十七夜がやってきた。16日の前夜祭から玄関先に提灯が灯され町内には門かんぬき（鳥居のアーチに紅白の布を巻き高張りの提灯をぶら下げる）が5、6箇所も立てられ町内は露店がガスランプを灯して並び玩具屋、桃などの食べ物、トコロ天、かき氷、見せ物屋が「ハブやマンガースの戦い」を演じて見せていた。

小学校は午前中で終わり昼過ぎからはお宮の奉納相撲、3時から御



相撲大会

神幸式の「チョイヤサ、チョイヤサ」のかけ声。18日は送り祭で川上、柿田方面の青年男女が衣装を着飾り田植囃子を植松から打って出て夕方遅くまで銅を鳴らす音が聞こえた。ガスランプを灯して並ぶ露店、母から聞きました「大代の十七夜は人でいっぱい身動きがとれない」この光景は心に光と明かりが灯り楽しくさせてくれます。

大代婦人会の「婦人会だより」も令和4年の新年号で200号になります。新型コロナウイルス感染症の為に休みもありましたが変化を受けながら努力をして行きたいと思えます。「ひろば大代」の益々のご発展をお祈り申し上げます。



お彼岸やひろば大代五百号

あすなる句会 花田時子

ひろば大代500号おめでとうござい
ます。100号、200号、300号、400号と、
感慨深く読ませて頂きました。昭和

成令和まで50年間続けて来られました関係者の皆様へ有難う御座居ました。そしてお疲れさまでした。感謝致します。

今は亡き先輩達のご苦勞に報いるためにも末永く続きますようお祈り致します。又あすなる俳句も1号から載せて頂き50年とかるくは言いますが嬉しい時も悲しかった時も楽しかった事も過ぎ去ったことは懐かしくさえ思えます。

あすなるの五拾五年目花の春

祝！「ひろば大代」50号



東京島根県人会顧問

東京石見高山会 今田潔

「ひろば大代」50号発刊 誠におめでとうございます。

実に50年の長きにわたって地域の情報を大代町の皆様のみならず、現在他地域に住んでいる我々大代出身者に

も送り届けて頂きましたことに心から感謝し厚く御礼申し上げます。

これまで毎月欠かさず編集・発刊・配送にお骨折り頂いたすべての関係者の皆様に改めて心からの感謝をすると共に深甚なる敬意を表したいと存じます。小生現在さいたま市に住んでおり毎年8月のお盆には必ず大代の自宅に帰省しておりましたが、昨年は4月に新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言が発出され、残念ながら断念せざるを得ませんでした。今年8月には娘家族も一緒に大代の自宅に帰ることとしており毎年開催される「都市とふるさとを結ぶ交流会」の諸行事にも参加して大代の皆様との交流・懇親を深めたいと思っております。

緑豊かな大代町の

大自然の中で、清々しい空気を胸いっぱい吸い込み秀峰大江高山を前に眺めながら、そば道場で美味しい10割そばを賞味する幸せな時間を



過ごす健康寿命がのびる思いがします。

ところで小生子供の時から石見神楽が大好きで、笛太鼓の音を聞くとワクワクして思わず其方に足が向くという所謂「神楽お宅」でありますので「大江高山神楽社中」の上演を楽しみにしております。



大代盆踊りも輪の中に入り、毎年見様見真似で前について踊っているうちになんとか踊れるようになりました。何事も自ら体を動かし主体的に楽しむことが肝要と実感しております。

さて新型コロナウイルス感染防止対策の一環でワクチン接種も4月以降順次実施されるので、年後半には社会全体の正常な活動が回復するものと期待しています。

「ひろば大代」50号記念誌に寄稿する機会を与えて頂き誠に有難うござい

ました。拙文をおわびすると共に大代町の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りして筆を擱きます。



線と点 大代分校・ひろば大代

東京石見高山会 鳥笥尾正

農村文化の向上を目指し開校30年、農村の過疎化で閉校42年が過ぎたが、小笠原哲学（2代主事 龍谷大学卒）の校提「誠実」は人間の条件である「勤勞」は人格の母である「創造」は人生の榮光である。669名の卒業生に脈々と受け続がれている。

昭和23年5月新学制による勤労青年を対象に、憲法により保障された教育の機会均等で定時制課程という画期的制度ができた。（当時大代村は戸数480戸、人口1900名、平均家族4名）教育に熱心な大代は、市原成臣助役の4ヶ月に渡る八面六臂の活躍で、定時制高校の誘致に成功、同年9月、財政難のなか避病院跡を校舎として改築、苦心惨憺のすえ開校した。

その僅か10年後、昭和34年県教育委員会は「高校再編成整備」に抵触する高校並びに定時制の廃校を含む見解を発表した。その対象の中に大代分校もあつた。

教育の機会均等で定時制教育振興を叫ぶ10年に拘わらず、一抹の寂しさを感じました。

環境に恵まれた暢気な私達は、廃校など頭の片隅にもなく、余り話題に上りません。「世間が騒いでも、見る人は見ている。自分達の使命を頑張るよう」小笠原主事先生の力強い言葉を信じていたからです。

これに対し、地区住民は存続に闘魂を秘めて立ち上がり、昭和34年9月15日午後1時大代公会堂に総勢約600名



大代公会堂

の大代、井田、三原、祖式住民、卒業生が集合、恒松志良・佐々木喜兵衛両県議、山崎藤太郎大田市会議長、福田公室長市長代理を迎え、決起集会「大代分校廃止、存続必成地区区民大会」が開催された。

その熱気たるや建物を揺るがす2時間、時には怒号と殺気だった熱気あふれる真剣勝負質疑応答後一時休憩、高崎寿氏が「大代分校絶対存続必成」決議を声高々に宣言、その一声で、我々生徒も肩の荷が下りました。

時期や情勢に応じた行動は、其の疾きこと風の如く11月7日「大代分校後援会」が結成された。翌8日には、早

速行動開始、竹内会長ほか3理事は、福田公室長・山崎市議会議長、松田教育委員と県教育



邇摩高校大代分校倉庫

委員会に対する陳情打ち合わせ後、両
県議を訪問した。

その時、松田委員より「大代分校は
施設・設備不十分で教育効果不振で存
続の期待薄し」との説明を受け、その
夜には、常任理事会で指摘事項の対策
を協議した。

翌9日間髪入れず市原、木村理事は、
再度松田教育委員に、日向理事は小笠
原主事を帯同して福田公室長、山崎市
議会議長にその熱意披瀝ひれきの陳情を行っ
た。

連日休む事なく11月10日、竹内会長
以下5名、曾田県教育委員長、斉藤教
育長に面談したが「大代分校の実態と

認識が充分
に伝達され
ていないこ
とに愕然おどろ
帰町後、急
遽理事会を
開き、その
徐しゆかなるこ
と林の如く
現状を分析、



邇摩高校大代分校

将来の運動方針を固めた。

越年をはさみ416日、運動方針達成に
むけて休む事なく、会長を先頭に地元
市町村、県教育委員会へと粘り強く「折
衝、陳情」と侵おかし掠かすめること火の如く、
連続の日々であった。

県教育委員会は、再編成計画を昭和
35年1月から12月へと1年掛けて練
り直し、ついに大代分校の存続が決定、
昭和54年閉校までの20年間存続する
線となった。

「大代分校廃止、存続必成地区決起
大会」の熱い町民の不動の信念は、動
かざること山の如し、マグマの結晶が
固まった1年半、今日振返って視ると
その戦法は、孫子の兵法「風林火山」
そのもので貴重な歴史の一瞬であった。
(昭和34年大代公民館報6号「大代分
校存続必成地区区民大会」に参加して
生徒会長 鳥笥尾 正を加筆) 参考文
献「高嶺」

「ひろば大代」500号発行おめでとう
ございます。

昭和45年「つどい1号」から50年の
月日、何百何千何人の努力と魂が刻ま

れています。文字からその時々の社会
情勢と故人投稿者の激励が偲しのばれ、通
過点としての歴史が再認識出来ること、
「ひろば大代」紙文化の恩恵です。

今の世の中「ひろば大代」の情報を、
いち早くデジタルで情報が伝えられて
いますが、長い歴史の中では、人は紙
に字を書き、活字を読んで記憶を定着
させました。

自転車と言えば前輪がデジタル、後
輪は紙文化です。現代は、日進月歩、
両立させることが必然となりました。

紙文化の象徴「ひろば大代」は島根
県優良公民館としても表彰を受けた実
績もあり、そ
の時の編集
関係者、それ
を引き継いで
努力されてい
る皆様に敬意
とお礼を申し
上げます。

元公民館長
田辺孝先生も
「ひろば大



旧大代公民館

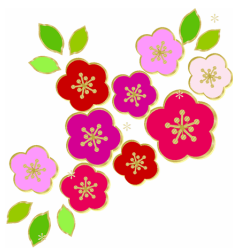
代」に誌された記事は大代町の貴重な歴史であり歩みとなっている”と200号で継承を提案されています。

毎月ふるさと情報を楽しみに体は異郷で町民の一員として、ふるさととはわが心にあります。更にとの様な新しい歴史の積み重ねがあるのか、10年後の600号が楽しみです。

物事をなす際の人的繋がりが「線」、時の刻みの一瞬が「点」として歴史は永遠に継続します。

「大代分校」は「点」として大代町の歴史に輝き「ひろば大代」は「線」として未来に向かって歴史を切り開いています。

両事項の共通点は「歴史は、人が作り、そして人は、その歴史に育てられる」の一言です。



故郷をあとにして54年

東京石見高山会 渡邊真喜子

「ひろば大代」500号発行、本当におめでとございます。これまで携わつ

てこられた多くの皆様にお礼を申し上げます。

私は1967年（昭和42年）に故郷をあとにしました。遠く離れて暮らしている我々にとりましては、大代の様子を唯一の楽しみが「ひろば大代」です。

なかでも、お名前を知っている方々の俳句等に出会いますと、とても懐かしく思います。

私の両親は今、四日市にあります宗通寺の墓地に眠っています。一昨年春、姉妹でお墓参りに行きました。両親の生前からお盆やお正月の帰省は何度もありましたが、春の帰省は殆どなかったような気がいたします。

長い年月が経った大代の春でした。この日はお天気も良く、お寺の庭でお弁当を広げながら、庭の桜や色々な



宗通寺

お花、大江高山の美しさを堪能いたしました。

子供の頃から毎日見ていた大江高山は、今も昔も変わらない姿で私達を見守ってくれているように見えました。

コロナ禍の生活が一年以上も続いております。毎年秋に皆様にお会いできる「東京石見高山会」も中止になり、寂しい1年でした。早い新型コロナウイルス感染症終息を待ちこがれている今日この頃です。

どうか大代の皆様、お身体大切に、これからも大変なご苦労があるかと思いますが、600号を目指し、「ひろば大代」を続けていかれることを願っております。

おめでとございます

東京石見高山会 御手洗朋子



「ひろば大代」の創刊から500号の誕生おめでとございます。半世紀にわたる町民の営みの記録は郷土を築いた大勢の人達にも届けられる。広報紙

編集に関わる方々の御苦勞のたまものと深く感謝致します。そして同時に届く婦人会だよりと共に大代の現況が連想されて雑然とした都会暮らしの私に清らかなふるさとの息吹に触れるひとときです。大江高山の四季折々、大代まちづくりセンターでの行事、よつちやん菜、そば道場、えびすの会、高山小学校・第三中学校の生徒さんの声々…。中でもあすなる句会はそのしみなコーナーです。

俳句と言えば中学校の恩師尾崎三枝子先生から頂く便りには必ず一句詠ってありました。私は何とかお答えしなければと思いつつそのままでした。還暦を過ぎてフトしたご縁で公民館活動の俳句会に入れて頂きました。十七文字に込めた不思議な世界。俳句を通じて築地本願寺のお仲間へと拡がり、和田堀廟には九条武子さま、樋口一葉・中村汀女さん…と見慣れている木樹草花の折々に心ひかれます。不勉強な意気地なしの私が句会を共にする皆様からは俳句の楽しさ、厳しさを教えていただき深く感謝いたしております。「あすなる句会」の皆様、お互いに精

進いたしましたしよろね。そしてひろば大代50号発行、おめでとうございませう。600号、700号を期待してペンを置きます。合掌

五百号ひろば大代辛丑^{うし}弥生
紀元節御代のことなど祖母と唱し



大代中学第4期生卒業記念写真

S26.3



「ひろば大代」が語り伝えたもの

関西高山会 田中公道

凄^{しみ}い！ふるさと大代を語り伝えた「ひろば大代」が五百号を迎えた。それは半世紀の長きに亘^{わた}って継続された大事業で、「つどい」がガリ版印刷からスタートしてタイプライター、ワープロと大変な時代を乗り越えられた歴代の館長、主事、事務の皆様方に心から敬意を申し上げます。

この半世紀の長きに亘^{わた}った大事業で「ひろば大代」が伝えたもの、それは時代の流れと故郷の推移だった。だがそれは日本の縮図でもあった。

昭和22年(1947年)11月、町村合併で大代村が誕生して人口が1982人。昭和24年に公民館も設立され、「つ



S22 大家村と八代村
合併祝賀行事



S22 大家村と八代村
合併祝賀行事

どい」が刊行された昭和45年(1970年)には1209人だった大代町の人口が今年(2020年)は328人となった。

小、中、高とあった学校も全てが統合されて大代には無くなった。大なり小なりはあっても都市部でも同じことが起こっているから一地方の問題ではなく日本の構造上の課題だったのである。

昭和62年(1987年)ひろば百号記念特集は、百号達成のお祝いと大代町の将来を危惧する内容が多かった。その記念誌が二百号から三百号にして四百号にと歴史が積み重なっていく都度、故郷の活性化とお祝い、希望にと変化して来た。そこに人々の生活の豊かさや成熟した社会、故郷を後にされた方々の豊かさを感じさせられる。

記念誌に登場された歴代の館長さんに懐かしさを覚えたことで私も齢を重ねたと実感している。

これからも変わることはないであろう故郷の山河、「ひろば大代」がどのような故郷と、人々の姿を伝えていくのか。記念誌五百号に登場される多くの方々、そして「ひろば大代」が永遠であることを楽しみにしている。

祝ひろば大代50号

東京石見高山会 大場隆男



大代町民、また出身者と故郷をつなぐ広報紙として、41年8ヶ月の永きにわたり途切れることなく、貴重な故郷情報を発信いただきました関係者の皆様のご尽力に感謝し、厚くお礼申し上げます。

毎号を、インターネット大代町ホームページ掲載を楽しみに、今月号は、どんな記事が載っているのかと興味深く待ち遠しいものです。さかのぼって、

10年分の閲覧も出来、故郷との距離、時間差を感じない、情報化時代の便利、有難さを実感し、春夏秋冬、故郷の恒例諸行事の模様を知ることが出来、故郷との一体を強く感じます。

4年前より掲載の始まった大代町人口は、当時374人、本年1月は329人(昭和32年頃の小学校の生徒数とほぼ同じ)。この間、大田市全体の人口減が6%に対し大代町は12%です。

昭和45年1208人、60年846人、平成22年450人と、号を重ねるごとに、その減少は高齢化と共に避けられないこととは言え大変寂しい思いです。

市の目標人口は、40年後の2060年に2万3千人との公表ですが、大代町のことは考えないことにしました。

我が出身集落も記憶にある最大人口は、時代幅での14軒70名でした。現在、在宅者は、3軒6名となり、帰省する度に、家屋は残っていても主不在、全く変わらない自然風景の中に立ち、60年前の集落の皆さんのお顔を思い出すにつけ、懐かしさをはるかに上回る寂しさがあり、時の流れを実感せずにはいられません。

最後に「ひろば大代」が今後何十年先も継続することを祈念致します。



昭和 31 年集落の方々(弓久、右原他)

認知症の予防に

回想できるひろば大代に

元大代公民館館長

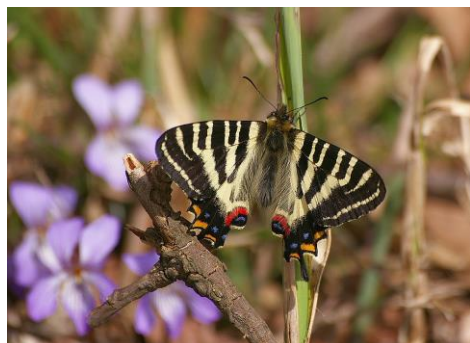
柿田 横手新治郎



あれから「16年8ヶ月」月日の経つ速さを痛切に感じます。300号、400号で、お祝いを述べさせていただき、今回は500号のお祝いを述べさせていただきます。この機会に、まちづくりセンターに

ファイル保管してある、「つどい」と「ひろば」をパラパラとめくってみました。「つどい」の記事に掲載されている方は、「存命ではありませんが、「ひろば」の記事には、それぞれの立場で、現在も活躍されている方の記事が多くありました。それらを読みますと、当時の様子が、走馬灯のように思い出されま

す。大田市では、平成15年からまちづくり推進事業が始まり、各地域で話し合いを重ねスタートした「そば道場」「よっちゃん菜」の店も17年になります。現在も脈脈と続けられています。また、大江高山の「ギフチョウを見る登山」も、天候の都合で中止されることもありましたが、町内外の方々の参加で続けられています。これらにも参加しての感想などが、たくさん綴られています。



「ひろば大代」の一番の特徴は、大代町の諸事業に参加しての感想や、町

の移り変わりなど、町民や関わりを持たれている皆さんから寄せられた記事が大半となっていることだと思います。発行者からの一方的な記事だけではないことです。そのことが今日まで継続されている要因で、大田市内でも、毎月発行し、町民からの記事が寄せられている例はないのではないのでしょうか。特に、町外に転出されている、関西、関東方面、その他各地の方々から寄せられる記事は、貴重であり、大変ありがたく思います。何十年たった今も、生まれ、育った「ふるさと」を大切に、激励していただいていることに感謝のほかありません。毎月25日の自治会の日に受けとりますが、早い時には都会の方から感想や、お尋ねの電話が先に入ることもさえます。早く確実に届くことが求められる時代となり、インターネット、スマホが普及している現在でも、広報誌による伝達は重要なことです。

「つどい」の発刊から今年で51年になります。この間の出来事などを記事を利用して回想し、語り合うことは、認知症の予防の一つとだと、出雲市立

病院の心理学の先生の書かれた書物からも判りました。

「ひろば」の文字通り、より多くの方が語れる「広い場所」としての役割を果たし、過疎地域は厳しい状況の中ですが、さらに充実した広報誌になり、大代に住み、暮らしてよかったと思える地域となることを祈念いたします。

最後になり恐縮ですが、500号の大台の達成を、心よりお祝い申し上げますとともに、8年4ヶ月先の600号の大台達成を祈念いたします。

祝500号!!

元職員 上市 横田美恵子



祝500号 到達おめでとうございます。

過去に「ひろば大代」編集に携わった者として、大変嬉しく思います。

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、未だ終息の兆しがみられない状況です。

外出自粛の規制などもあり、まちづくりセンターでは限られた事業しか出来ないなかでの発行継続は大変だったと思います。

さて機会をいただきましたので、歴代の館長さんを書きとめておきたいと思えます。

- | | |
|----------------|------------|
| 初代 渡 昌雄様 | 2代 松島定範様 |
| 3代 小笠原恵利様 | 4代 原田秀興様 |
| 5代 木村頭三様 | 6代 尾崎義徳様 |
| 7代 高崎 章様 | 8代 花田三郎様 |
| 9代 日向重守様 | 10代 橋本昭二様 |
| 11代 田辺 孝様 | 12代 渡利吉正様 |
| 13代 市原仁郎様 | 14代 渡利吉正様 |
| 15代 笹木光夫様 | 16代 横手新治郎様 |
| 17代 竹島 修様 | 18代 畑 誠様 |
| 19代 佐藤哲朗様 (現在) | |

※ 大代公民館が平成21年度から大代まちづくりセンターに移行し、17代竹島館長が任期途中からまちづくりセンター長に任命され、以下まちづくりセンター長となります。

私が一緒に仕事をさせていただいたのは10代橋本館長様から19代佐藤センター長様で10名の方々です。鬼籍に入られた方もおられ、その時どきの思い出も多く、至らない私でしたが色々お世話になり、人間として成長させていただきました。そして地域の方々や都市にお住まいの方々にも大変お世話になり有難うございました。

まちづくりセンターの職員さん、編集委員の方々、これからも地域の情報誌として「ひろば大代」の継続をよろしくお願い致します。

祝進行中「ひろば大代」

元職員 榎原敏子



こんにちは、大代町の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。

毎月発刊される「ひろば大代」が、この度、500号の節目を迎えられることは凄いいことであり皆の力の結束であると思えます。心よりお喜び申し上げます。

す。少しでも携わらせて頂きました頃の
のことを思い出します。

今まで触ることもなかったパソコン
の打ち込み方を教えてもらい、大切な
原稿を打ちながら、変換を間違えたり
句読点の見落としがないよう何回も読
み返したり、それでも間違えたりして、
編集委員の方々のお世話になりました。
早く原稿を書いてくださった方々のそ
の文章力に感心するばかりの私でした。

今は、「ひろば大代」を毎月、スマホ
のインターネットで見させて頂いてい
ます。大代町を離れても広報を見なが
らなつかしく思い、いろいろな行事が
引き継がれ、さらに挿絵や写真等編集
委員の方々の結束に嬉しく拝見させ
てもらい、私が今でも大代町民であるか
の様に夢を見ることもあります。

これからも引き続き、600号を目指さ
れ末永く、大代町の行事、出来事、風
景等を「ひろば大代」を通し、情報源
として愛読させて頂きます。

大代町関係の皆様のご健康
とご多幸を祈念し、お祝いの
言葉とさせて頂きます。



俳句

あすなる句会



椿 花田時子

着膨れてデイサービスの迎へ待つ
叢がりて道の辺そめる黄水仙

下市 今田文子

コロナ禍や行き合ふ人なき里の春
しばらくは畦に座りて蓬摘む

川上 岩田律枝

年寄りの集いて作る雛人形
淡雪の降りては消ゆる昼の庭

上市 横田美恵子

動く影何かと見つめる春の水
廃屋にひっそり色づく黄水仙

椿 柿丸寿枝

青空のままに昏たり黄水仙
自負もなく過ぎ来し日々や桃の酒

+++++

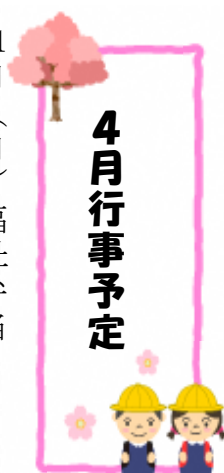
おしらせ

★まちセンから

「つどい」と「ひろば大代」すべて
をデジタル化し、閲覧できるよう準備
中です。また同時に、大代高山会ホー
ムページをスマートフォン対応にすべ
く準備を進めております。完成次第ひ
ろばにてお知らせいたします。

★大代高山会から

毎年4月に開催している「大江高山
観察会」は新型コロナウイルス感染拡
大防止のため中止といたしました。



▼11日(日) 福祉弁当

▼11日(日) 大江高山自然観察会

※中止

▼23日(金) 連合自治会

~~~~~

▼1日・8日・15日・22日(木)

えびすの会 9時半～11時半

※行事は延期・中止になる場合があります。

紙面で 振り返る 「ひろば 大代」 の歴史

← 記念すべき「つどい」第1号  
昭和45年11月15日発行  
ガリ版印刷、用紙はB4の2つ折り  
発行は不定期



← 仮称「大代ひろば」となる

昭和55年6月15日発行  
文字・イラストすべて手書き  
公民館報名称募集の記事あり  
ここから毎月発行が始まる

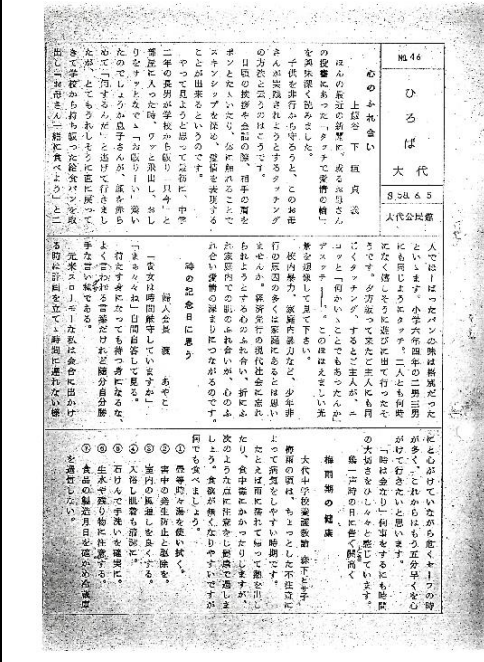


← 「ひろば大代」へ名称変更  
昭和55年7月15日発行

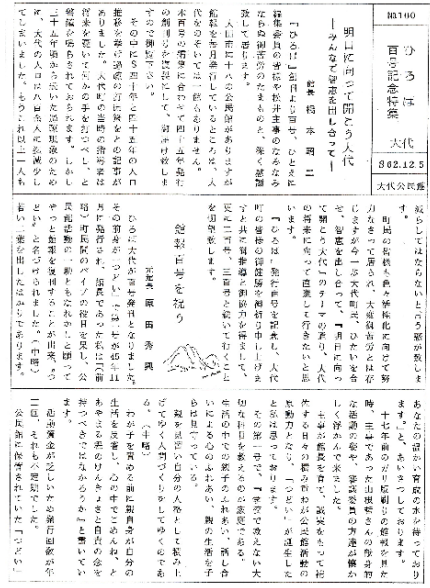


← 「ひろば大代」46号

昭和58年6月5日発行  
手書きからタイプライターへ

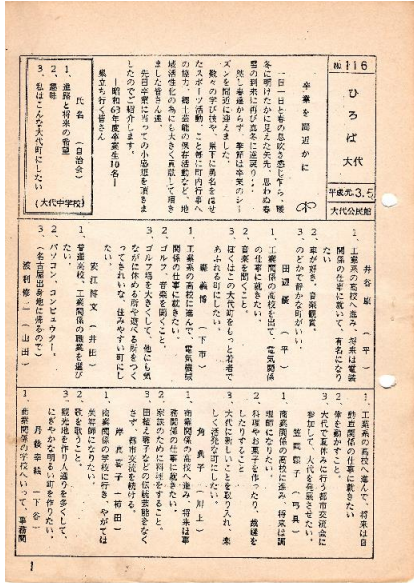


← 「ひろば大代」 100号記念特集  
昭和62年12月5日発行



← 「ひろば大代」 116号  
平成元年3月5日発行

タイプライターからワープロでの編集  
になる



← 「ひろば大代」 200号発行記念特集  
平成8年3月7日発行

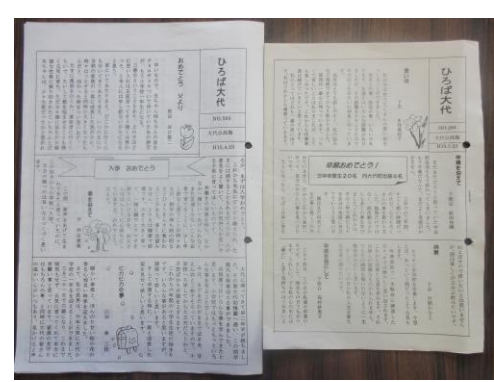


← 「ひろば大代」 268号  
平成13年11月23日発行

ワープロからパソコンでの編集になる

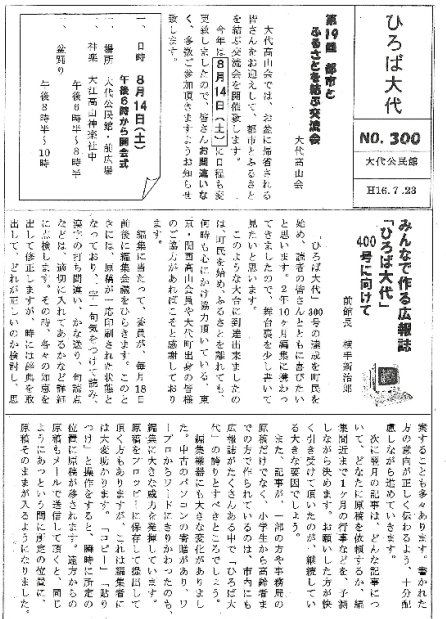


← 「ひろば大代」 285号  
平成15年4月23日発行



折りになる  
用紙がB4の2つ折りからA3の2つ  
折りになる

← 「ひろば大代」 300号  
平成16年7月23日発行



↑ 285号      ↑ 284号

